

韓国政府による韓国の市民団体「平和と統一を開く人々」に対する国家保安法弾圧を弾劾する声明

韓国の反戦平和市民団体「平和と統一を開く人々」(以下「ピョントンサ」)が2月8日に国家保安法容疑で大規模家宅捜索を受けたという報に接し、私たちはこの弾圧を徹底的に弾劾する。そして、李明博政権と、無数のでっち上げ事件で世界に汚名をとどろかせたKCIAの後続組織である国家情報院が、今回のでっち上げ弾圧を直ちにやめることを強く求める。

家宅捜索はピョントンサ事務室の事務所長及び現場チーム長の机とコンピューター、仁川ピョントンサ事務室、メンバーの居住地、ピョントンサのサーバー管理業者の進歩ネットワークセンターなど全7か所で、午前8時30分から午後7時まで行われた。容疑は国家保安法第7条第1項(賛美同調)、第5項(利敵表現物制作頒布など)などだという。対象になったのはオ・ヘラン事務所長とキム・ジョンイル現場チーム長、仁川ピョントンサの事務局長と教育部長の4人である。

令状にある弾圧理由をより詳しく見ると、2007年以來のピョントンサの活動、つまり、キー・リゾルブ米韓合同戦争演習反対、共和国への侵攻作戦である作戦計画5029の破棄、ミサイル防衛体制阻止、国防予算削減、朝鮮半島平和協定実現運動、済州海軍基地阻止闘争、作戦統制権返還、国連軍司令部解体運動など、ピョントンサが取り組むすべての事案が、国家保安法上の賛美同調、利敵表現物制作頒布などに該当するとしている。つまり、これらの活動が朝鮮民主主義人民共和国の指令を受けており、共和国を賛美同調するものだとしているのだ。これについてピョントンサは、それなら共和国と「平和協定を締結する」といったブッシュ前大統領も共和国の主張に同調しているのであり、済州海軍基地に反対する数多くの国民も国家保安法に違反していることになる」と痛烈に批判している。

また国家情報院は令状で、ピョントンサが裁判所で利敵同調罪と判断されている駐韓米軍撤収を主張しているので押収捜索によって利敵性を明らかにしなければならない、と主張している。しかし、休戦協定第4条第60項は「韓国の問題の平和的解決のために……3か月以内に……政治会議を招集して韓国からの全ての外国軍隊の撤収問題を協議する」と明示している。1975年には国連総会でも外国軍隊の撤収が決議されている。米国ですら協議する対象と位置付け、かつ国際社会も後押ししている駐韓米軍撤収の問題について韓国民衆が主張することのどこが罪なのか。国家情報院の主張に従えば、米国政府も国連加盟国もみな国家保安法違反になる。

さらに国家情報院は令状で、朝鮮労働党の指令を受けて武装蜂起を企てたとして昨年8月に国家保安法違反容疑で「摘発」された地下組織「旺載山(ワンジェサン)」に仁川ピョントンサの事務局長及び教育部長が入って活動していたかどうかの証拠をつかむため、かつ、ピョントンサ事務局長兼仁川ピョントンサ共同代表オ・ヘランさんが仁川ピョントンサを監督する立場にあるので自宅と事務所を捜索しなければならないと主張している。しかしこれも全く根拠のないでっち上げだ。

加えて国家情報院は、金正日国防委員長長の死去に対しピョントンサが秘密裏に弔意文を送ったかのようにとらえている。しかしピョントンサは統一部の事前接触承認に基づいて文案も統一部と協議し、適法かつ正当な手続きを踏んで弔意文を送っている。国家情報院の主張は、たちの悪い言いがかりだ。

捜索と押収も問題だらけだった。令状にない人間の机や家族構成員の物品への捜索押収、ピョントンサではない団体の記者が近づくことを禁止するなど、違法行為だらけであった。

今回の弾圧の狙いは何か。それは済州海軍基地建設闘争をつぶすことであり、この闘いで重要な役割を担っているピョントンサをつぶすことである。済州島・江汀(カンジョン)集落で現地闘争団として常駐しているキム・ジョンイル現場チーム長と済州海軍基地建設阻止のための全国対策会議共同執行委員長を担っているオ・ヘラン事務所長の自宅と事務所のコンピューターを集中して捜索したのはそのためであろう。

しかし、国家情報院の国家保安法弾圧にピョントンサは負けていない。「この程度の弾圧で萎縮するだろうと思ったとしたらそれは大きな誤算だ。今後も朝鮮半島の平和と自主統一のためにいっそう力いっぱい闘う」と決意を明らかにしている。

私たちは、ピョントンサに対する国家保安法弾圧を直ちに中止することを韓国政府にもう一度大きな声で要求する。加えて、済州島海軍基地建設現場を何度も訪れてきた私たちにかげられた、AWC日本連4名に対する入国禁止措置を今すぐ撤回することも、あわせて韓国政府に強く要求する。平和を愛する世界中の人々が江汀集落

の住民及び支援の活動家の闘いに連帯し応援することを、このような弾圧によって断ち切れるものではない。
ピョントンサ、ファイト！

私たちはピョントンサの適法で正当な反戦反基地闘争、駐韓米軍撤収運動、朝鮮半島平和条約締結運動を断固支持する。江汀集落の住民及び支援の活動家の適法で正当な海軍基地建設阻止闘争を断固支持する。私たちもまた、これからも勝利の日が来るまで江汀に何度でも行き、連帯闘争を繰り広げる。

2012年2月10日

アジア共同行動(AWC)日本連絡会議